

筑波大学新聞

第346号

編集責任 筑波大学新聞 編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp

発行所 筑波大学 茨城県つくば市 天王台1-1-1

注目記事

- 松美池で魚が大量死 2
- まな板やしちもじで演奏 5
- 女子バス対談 藤岡×高辻 8
- 12年ぶりの明治神宮大会 9



3安打の活躍を見せた種子島

- 子育て支援 他大学は 10
- 雙峰祭で「#つくばえ」 10

- ミニ特集 3

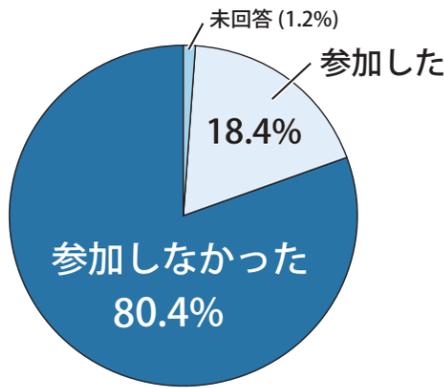
学生の防災意識低く 筑波大と防災

- 特集 6,7

大学スポーツ 筑波大ADとは何か

11月14日の防災訓練・本紙調査 筑波大生の8割不参加

今年の筑波大学防災訓練に参加したか？



筑波大学で11月14日に行われた防災訓練を機に、本紙は、筑波大生245人に訓練や防災意識などについてアンケート調査した。その結果、8割以上が「時間がない」「場所や日時が分からない」「興味がない」などを理由に訓練に参加できなかった。また、災害時に大学に安否報告を行う「筑波大学安否報告WEB」の存在について聞いたところ、約4割が「知らない」と答えるも、調査結果は筑波大生の防災意識の低さを示した形だ。

(木村誠)人文学類2年、池田花於里(比較文化学類2年、3面に関連特集)

アンケートは学群生を中心に実施。その結果、防災訓練に「参加しなかった」と回答した学生は197人(80.4%)と、「参加した」(45人、18.4%)を大きく上回った。また「参加しなかった」理由を複数回答で聞いたところ、「時間がなかった」が97人(49.3%)と最多で、次いで「具体的な日時や場所が分からない」(54人)、後者では6.8%

「時間がない」最多



撮影・秋田耕平=社会学類3年 第38回つくばマラソン(11月25日)残り1キロ地点。1万5000人のランナーが晩秋のつくば路を駆け抜けた。(11面に関連記事)

市のクレオ再生計画 白紙 五十嵐つくば市長「マンション化、仕方ない」

つくば市は、これまで検討してきたクレオ(つくば市吾妻)の再生計画を白紙撤回した。五十嵐立青市長(平成13年度国際総合学類卒)が本紙の取材に際し、分かつたもので、市議会の理解を得るには時間が足りなかったことが理由。今後クレオは民間企業が購入し、一部がマンションになる可能性が出ている。(木村誠)

クレオは、西武筑波店が「まちづくり会社」を設立。昨年2月、イオンつくば駅前ビルを購入するのを前店が1月にそれぞれ撤退し、空きビルとなっていた。これに対しつくば市は、市民間企業などが出資する案を10月26日の臨時議会へ提出する予定だった。



五十嵐立青市長

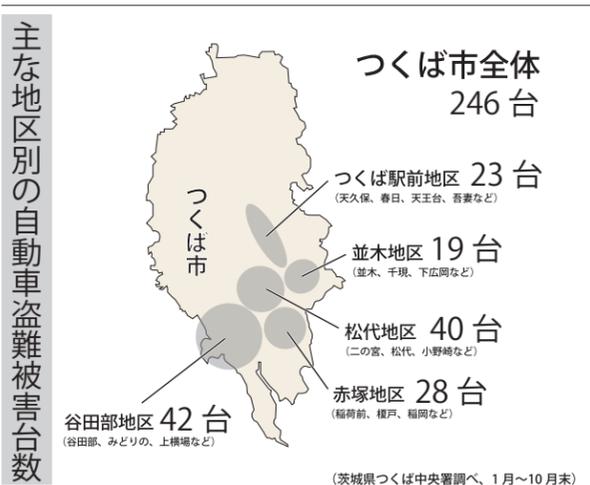
案の提出を見送った。この後、市長らが市議への説明を行ったが、11月2日、「議会の理解を得る時間が足りなかった」として、市側は同計画の議会提案を断念。計画は事実上、白紙撤回された。

市によると、クレオを所有する筑波都市整備(同市竹園)はクレオを年内に売却したい意向で、12月中旬に購入代金の支払いを求め「ギリギリまで市議と交渉したが、(支払の準備が)期限までに理解を得ることができなかった」と話した。

業施設のキョウトやモクも民間企業が購入する可能性もある。一方、同市によると民間企業は、イオンが入居していたクレオ西側の棟は解体しマンションを建設することを検討している。

自動車盗難 過去最多 新手法での犯行か

つくば市内での自動車の盗難被害が急増している。つくば中央署によると、1月～10月末までの市内の盗難台数は246台で、過去最大の2015年の266台を超える最悪のペース。同署によると、この背景には鍵穴に鍵を差し込まずドアの解錠やエンジンの始動ができる「スマートキー」の弱点を狙った犯行が、同署は注意を呼び掛けている。筑波大学では教職員・学生が通勤・通学で自動車を約6500台利用するが、盗難は大学周辺でも多発している。(森賢太)社会学類2年、11面に関連記事



同署によると、1月～10月末までの全国の盗難被害は7375台で、うち茨城県は最も多い1243台を記録。中でも、筑波大などを含めつくば市の約8割の人口が住む地域を担当する同署管内の盗難被害は233台で、県内の各警察署管内の中で最多だった。

同署によると、この手口は「リレーアタック」と呼ばれており、スマートキーの保管は市販の容器などを使いその電波を遮断すべきだといふ。同署の担当者は「全国的に横行する手口だが、証拠が残りにくい捜査は難しい」と話している。

主な地区別の自動車盗難被害台数

つくば市全体 246台

- つくば駅前地区 23台 (天久保、春日、天王台、吾妻など)
- 並木地区 19台 (並木、千原、下広岡など)
- 松代地区 40台 (二の宮、松代、小野崎など)
- 赤塚地区 28台 (稲荷前、榎戸、稲岡など)
- 谷田部地区 42台 (谷田部、みどりの、上横場など)

(茨城県つくば中央署調べ、1月～10月末)

た。被害車両の多くは人気車種の乗用車で、盗難場所は▽アパート駐車場65台▽月極駐車場48台▽自宅36台▽マンション駐車場12台……などで、犯行は「午後7時～翌朝7時に集中する」(同署)といふ。

盗難台数の急増の背景として同署は、スマートキーの弱点をついた新たな手口の横行を指摘する。複数の犯人が組み、うち一人がスマートキーを持った人間に接近。隠し持った特殊機器を使ってスマートキーの出力微弱な電波を増幅し、車のそばにいる仲間へ送信。この仲間が別の特殊機器でこれを中継しその電波で車に侵入するといふ。

現場百遍。筑波大学新聞の記者になり2年経つが、この言葉もいつも思い起こすように言われてきた。現場を何度も訪れ取材することで、物事の真相に迫れるという意味だ。最初はよく分からなかったが、昨夏イランを訪れた際に、その意味を実感した▼戦争、暴力、核開発……。同国を訪れる前は、そんなイメージが強かった。だが、10日ほど滞在した現地では、まずイスラム建築や古代ローマ遺跡などの遺産の数々に圧倒された。印象的だったのは人々の笑顔。どこでも明るく迎えてくれた。「温かい国だ」と感じた▼だが数日後、別な面も見え始めた▼SNSが自由に使えない情報統

筑波お話し

「現場百遍」。筑波大学新聞の記者になり2年経つが、この言葉もいつも思い起こすように言われてきた。現場を何度も訪れ取材することで、物事の真相に迫れるという意味だ。最初はよく分からなかったが、昨夏イランを訪れた際に、その意味を実感した▼戦争、暴力、核開発……。同国を訪れる前は、そんなイメージが強かった。だが、10日ほど滞在した現地では、まずイスラム建築や古代ローマ遺跡などの遺産の数々に圧倒された。印象的だったのは人々の笑顔。どこでも明るく迎えてくれた。「温かい国だ」と感じた▼だが数日後、別な面も見え始めた▼SNSが自由に使えない情報統

制。ネット接続は、異文化の流入を恐れる政府の管理下にあり制限が多い。私がある単語を検索した際も、接続が全くできなくなった。無論「国教」のイスラム教を批判するサイトへの接続も禁じられている▼街で銃を抱えた宗教学者が、抵抗する人を連行する光景も目の当たりにした。不気味さを感じたのは、逮捕後の数秒後だ。あたりにはあたたかも何事もなかったように日常が戻っていた。そのコントラストに恐怖心を感じた▼イランで学んだ「現場百遍」。その大切さを大学新聞の取材でも生かしたい。現場で得られた情報や視点を、どのような文章で、いかに読者に還元するか。新年を前に記者として、もう一度考えたい。

松美池で魚大量死



「水質調査中」の掲示がされている松美上池。池には魚の死骸が浮かぶ(11月23日、第一エリア) = 木村誠撮影

筑波大学1A棟脇の松美上池(通称・松美池)で11月15日、大量の魚が死んで浮かんでいるのを筑波大生が見つけ、大学に連絡した。施設部は外部業者に水質検査を依頼。測定した5カ所のうち2カ所で、日本で最も水質が悪い湖沼とされる千葉県北部の印旛沼よりも水質が悪いことが判明した。施設部は検査を更に続け、原因を調査し対策を検討する予定だ。同部は「この池での魚の大量死は過去に聞いたことがなく、筑波大のほかの池も含め水質検査は初めて行った」と話している。

今回の水質検査では、湖沼の水質検査では、湖沼の数値が大きいほど水質が悪いことを示す化学的酸素要求量(COD)を測定。その結果11月16日に取水し、計測した5カ所のうち、2カ所で1リットルあたり13ミリグラム、これは印旛沼での平成28年度の年間平均値(1リットルあたり11ミリグラム)よりも高かった。

コイなど約130匹

同部によると魚の大量死の原因はまだ不明だが、外部機関に更に詳細な水質検査を依頼している。また、松美上池は開学に合わせて整備された調整池で、雨水が溜まっている。筑波キャンパスにある池は全て、過去に水質調査を行ったことがなく、清掃については不定期で行っている。

制振ダンパー改ざん

工学系学系F棟で

川金ホールディングス(埼玉県川口市)の子会社が出荷した免震・制振用オイルダンパーの検査データが改ざんされていた問題で、筑波大学の工学系学系F棟で使用されている同社製品44基のうち8基、データ改ざんがあったことが筑波大施設部への取材で分かった。同部は今後の対策について「製品の交換や改修を視野に検討している」と話している。

同部によるとF棟(鉄骨一了。その際、5〜12階に間鉄筋コンクリート造り地上12階建て)では、2009年3月に耐震改修工事を完了していたが、問題の製品が使われていた。川金ホールディングスは10月23日にデータ改ざんを公表していたが、問題の製品が使用されている具体的な施設名は公表しなかった。このため、同部が同社の子会社に直接、確認した結果、30日に同社から説明があったという。

11月22日、現場の松美上池周辺を歩いたが、池には依然として数十匹の魚の死骸が腹を上向きにして浮いていた。死骸は池の東側の文化系サテライト会館前に集り、辺りには生臭いにおいが漂っていた。中には池の縁に打ち上げられた死骸もあり、ハエのような虫がたかっていた。通りがかった学生は「腐敗が腹を上向きにして浮いていて、死骸を取り除いてほしい」と話した。また別の学生は「魚に罪はないのに、大量に死んでいるのを見て悲しくなった」と語った。

施設部によると11月28日と12月4日、松美上池で死んだ魚の一部を引き上げた。同部によると、引き上げた魚はコイが中心で、2日間約130匹に上ったという。

「命に関わる問題」 「ハゲタカ」命名者に聞く



栗山正光教授

電子ジャーナルの中で、「ハゲタカジャーナル」と呼ばれる粗悪な学術誌がまん延している問題で、研究を続けてきた首都大学東京の栗山正光教授(図書館情報学)にその現状や、対策などを聞いた。栗山教授はハゲタカジャーナルの最大の問題として「いいかげんな論文が流布した場合、人間の命にかかわる場合がある」としている。一問一答は以下の通り。

(越智小夏)比較文化学類3年 木村誠

「ハゲタカジャーナル」を定義して下さい。 掲載料獲得だけを狙った粗悪な学術誌で、出版社は、通常、数カ月必要を査

読を行わなかったり、それを行っていると言いがちやっていない。海外で生まれたもので、日本はまだ危機意識が薄い。粗悪な学術誌・出版組織を英語で「Predatory Journal」/「Predatory Publisher」と呼ぶが、それを「ハゲタカジャーナル」/出版社と私が訳した。

問題の発端は。 2012年、米・コロラド大学の図書館員がハゲタカ出版社「ジャーナル」のリリースを作成、公開したのが契機だ。その後、米で匿名の団体が「List of Predatory Journals」を掲載されており、それを更新公開している。ハゲタカジャーナルの最大の問題は、その問題点を指摘する論文が流布した場合、人間の命にかかわる場合がある。研究者はなぜ投稿するのですか。 「ハゲタカ」とされる学術誌には、日本をはじめ世界の有名大学の研究者の論文が掲載されることもある。投稿の理由はよく分からない。無論、「業績」目的の投稿もあるだろう。ハゲタカジャーナルの見分け方はありますか。 ウェブ上には学術誌の「ブラック/ホワイトリスト」が掲載されており、それを調べるのが大切。学術誌の評判をウェブで調べて、13年よりの現職。



工学系学系F棟(11月26日、第三エリア) = 後藤佳佳撮影

免震・制振用オイルダンパーのデータ改ざん問題で、10月16日に油圧機器大手のKYB(東京都港区)の子会社製造の製品が発覚。その後、川金ホールディングスが同様の製品を製造する子会社を調査したところ、全国の病院や教育施設など91件に問題の製品を納入したと公表していた。

安全基準満たさず ブロック塀 筑波大学は11月、学内と附属学校や研修所など8施設で、現行の建築基準法の安全基準を満たさないブロック塀の構造が確認されたため、今年度中をめどに対策を行うと発表した。6月の大阪北部地震で小学校のブロック塀が倒れ、女子児童が死亡した事故を機に、文科科学省は全国の学校や国立大学にブロック塀の安全点検を要請。その過程で見つかったという。

性的少数者対応 大学間で連携 性的少数者への大学の取り組みを話し合うシンポジウム「いま大学で対応するSOGI(性指向・性自認)/LGBT+」が、10月26日に筑波大学東京キャンパス(東京都文京区)で開催された。筑波大タイパーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの主催で、筑波大のほか、早稲田大学、お茶の水女子大学、関西学院大学、大阪府立大学の教職員や学生が参加し意見を交わした。

河野助教は、「大学同士で情報交換ができたのが大きな成果。1つの大学だけではできないこともあるので、これを機に、積極的に交流したい」と話していた。(後藤佳佳)

最大の問題点は。 でのたもた論文の流布が最大の問題。医学や薬学での論文では、それが流布した場合、最悪で市民の命に関わる場合がある。研究者はなぜ投稿するのですか。 「ハゲタカ」とされる学術誌には、日本をはじめ世界の有名大学の研究者の論文が掲載されることもある。投稿の理由はよく分からない。無論、「業績」目的の投稿もあるだろう。ハゲタカジャーナルの見分け方はありますか。 ウェブ上には学術誌の「ブラック/ホワイトリスト」が掲載されており、それを調べるのが大切。学術誌の評判をウェブで調べて、13年よりの現職。

同部では当面の安全性について「同社から直ちに交換が必要」とは聞いていないと発言。11月27日には、同社の担当者から問題の製品が入ると公表していた。

同部はこの結果を受け、来年度以降にも製品の交換や改修などの対策を決めていく方針だ。 データ改ざんの製品が工学系学系F棟で使用されていたことに、石野利和副学長(財務・施設担当)は「建物利用者の安全に関わる重大な事項で、極めて遺憾」とコメントしている。一方、同棟を利用するある学生は「全国ニュースにもなった問題の製品が使われているとは思わず、驚いた」と話していた。

同部は「魚に罪はないのに、大量に死んでいるのを見て悲しくなった」と語った。施設部によると11月28日と12月4日、松美上池で死んだ魚の一部を引き上げた。同部によると、引き上げた魚はコイが中心で、2日間約130匹に上ったという。

同部によると、引き上げた魚はコイが中心で、2日間約130匹に上ったという。

同部によると、引き上げた魚はコイが中心で、2日間約130匹に上ったという。

聞き上手で優しい人柄

ガイスター准教授(右から2人目) = ランディ教授提供

ドイツ出身のカナダ人。専門はコーチング学で、基礎科目「応用体育サッカー」を担当した。また、国際的なスポーツイベントの運営者を育成する博士前期課程の専攻「つくば国際スポーツアカデミー(TIAS)」の専属教員として学生の指導に尽力。スポーツの発展を考える「TIAS International Summer Institute」など留学生を招いた国際交流プログラムにも携わった。

同僚のランディ・ブライクワール教授(体育系)によると、「口癖は「It's not OK. It's not enough」。学生に指導した際には、自分の日本語が正しく伝わっているかどうか、以前研究室が隣で親密だった松元剛准教授(体育系)に何度も確認した。その妥協を許さない姿勢は学生への指導にも表れていた。学生にはすぐに答えを教えず徹底的に考えさせた。TIASでは時に5時間を超える指導もあった。

聞き上手で優しい人柄だった。誰もが「笑顔で耳を傾けてくれた」と語る。宴会では聞き役に徹し、冗談で話しやすい雰囲気を作った。研究以外

サッカー好きという共通点から親交があった学生は、亡くなる当日もメールで連絡を取り合っていた。彼女は語る。「エネルギーと微笑みに満たされた良い先生だった」と。(越智小夏)比較文化学類3年 中村瑞歩(日本語・日本文化学類2年)

指導に尽力。スポーツの発展を考える「TIAS International Summer Institute」など留学生を招いた国際交流プログラムにも携わった。

同僚のランディ・ブライクワール教授(体育系)によると、「口癖は「It's not OK. It's not enough」。学生に指導した際には、自分の日本語が正しく伝わっているかどうか、以前研究室が隣で親密だった松元剛准教授(体育系)に何度も確認した。その妥協を許さない姿勢は学生への指導にも表れていた。学生にはすぐに答えを教えず徹底的に考えさせた。TIASでは時に5時間を超える指導もあった。



ガイスター准教授(右から2人目) = ランディ教授提供

の相談を受けることも多く、私生活にも助言を惜しまない「人生のコーチ」であり続け足繁く通ったレストランは大



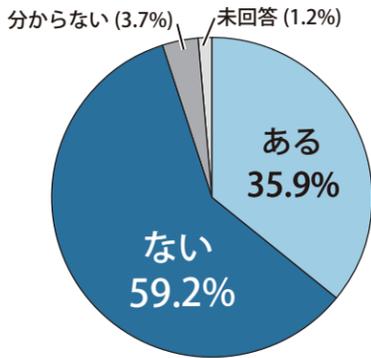
筑波大と防災



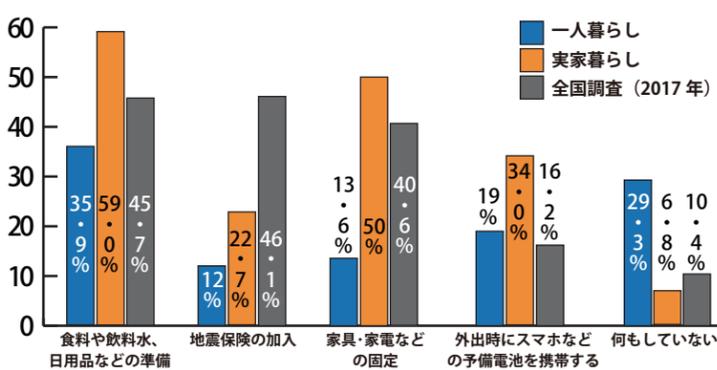
防災意識の低さ明らかに

【一面参照】地震大国日本の中でも茨城県では、過去10年間(2008～17年)に震度4以上の地震が197件発生している(気象庁調べ)。これは207件の福島県に次いで2位で、全国平均の35件を大きく上回る。このような状況の中、筑波大生はどのような防災意識を持ち、大学はどのような対策を講じているのだろうか。アンケートや各所への取材結果の詳細を報告する。(西村大祐、木村誠、人文書類、池田花於里、柏このか、比較文化学類、後藤佳幸、社会学類、竹添そら、知識情報図書館学類)

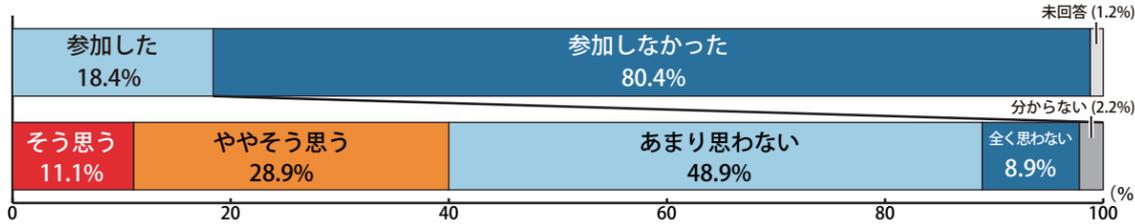
ハザードマップを確認したことは？



大地震に備えて自宅で行っている対策は？



(上) 今年の筑波大の防災訓練に参加したか？ (下) 同訓練は役立つか？



◆調査方法
11月16～19日に、総合科目や学群の授業などで防災意識に関するアンケートを実施した。設問は選択回答を含め12項目。計245人から回答を得た。学群別の内訳は、人文・文化54人、社会・国際51人、人間3人、生命環境9人、理工43人、情報78人、医1人、体育専門0人、芸術専門3人、大学院2人、未回答1人だった。

調査結果

今回の筑波大生245人へのアンケートで、内閣府が17年に全国の18歳以上を対象に行った「防災意識に関する調査」を比較すると、見えてきたのは筑波大生の防災意識の低さだった。大地震に備えた自宅での対策を一人暮らしの筑波大生に複数回答で聞いたところ、14項目中13項目で、全国調査に比べ防災に消極的な値が出た。自宅でも「何もしていない」は54人(29.3%)で、全国調査の同様の回答(10.4%)よりはるかに多かったほか、「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している」は44人(24%)、「家具・家電などを固定している」は25人(13.6%)で、全国調査の43.3%、40.6%と大きく違っていた。一人暮らしの筑波大生が「あまり思わない」が26人(57.8%)と、「そう思う」「ややそう思う」の18人(40%)を上回った。また参加者に、訓練参加の感想を複数回答で聞いたところ、「内容がイベント化している」が23人(51.1%)と最多で、次いで「災害時に取るべき行動を知る機会となった」が13人(28.9%)、「避難場所や避難方法が分かりづらい」が10人(22.2%)だった。

識者の声



梅本通孝准教授

「防災への関心低い」筑波大生の防災への関心の低さを感じる。基本的に人は配偶者や子どもなど、守ることができる防災意識は上がる。その点で、親元を離れ一人暮らしをしている大学生は最も防災意識が低い存在といえる。だからこそ年に一度の防災訓練には、自分の身を守ることを見直すきっかけ作りだと考え、ぜひ参加してほしい。また、ハザードマップを確認したことがある筑波大生も約3割と少ない。筑波大生の多くは大学卒業後、県外に就職する。新居探しでは最寄り駅や間取りを確認するが、それと同様に、をそろえて「まさか自分が被災するとは思わなかった」と話す。水と日持ちのする軽食などを普段から少しづつでも準備するなど、災害をひとことだと思わない考えを基にすると、現下、一人ひとりが防災意識を持つことが大切だ。

梅本通孝(うめもと・みちかた)
システム情報系・准教授。筑波大学大学院を修了後、日本原子力研究所の研究者、筑波大学大学院システム情報工学研究科講師などを経て、15年から現職。

防災訓練



防災訓練の様子(11月14日、本部棟北側駐車場で) = 木村誠撮影

11月14日に筑波キャンパスで行われた防災訓練の様子取材した。訓練では、本部棟北側の本部アネックス棟に「全学災害対策本部」が置かれた。両本部間では、携帯電話回線を使う「非常用電話装置(FOMA端末)」や無線機などを使い、けが人の有無や建物の損傷などの被災状況を報告した。筑波キャンパスには26カ所の屋外避難場所のほか、雨天や夜間時のための屋内避難場所が9カ所指定されている。教職員は、学生を最寄りの避難所に誘導する訓練のほか、担架などでのけが人を搬送する訓練を行った。また、本部棟北側駐車場で消防員が指導の下、初期消火訓練が行われた。空気を送り込むことで設置できる災害用の「エア Tent」の設置訓練も行われた。

防災訓練 年1回実施

一方、同日午後には学生と教職員を対象に3A棟で「障害学生等支援防災ワークショップ」が開かれ、障がい学生の避難手順などの講義が行われた。

大震災後に対策を強化

筑波大の防災対策

東日本大震災を機に、設備の再整備も行われた。この中で、屋外避難場所の避難者に避難情報などを流せる放送設備を23カ所に設置。停電に備え、太陽光パネルや発電機、蓄電池も備えた。また震災後には、学生や教職員の安全確認を行うウェブサイト「筑波大学安全報告WEB」も開設。名

東日本大震災

11年3月11日に発生した東日本大震災では、筑波大も甚大な被害を受けた。当時の状況をまとめた。

筑波大では幸い死傷者こそなかったが、多くの建物や設備が損壊し、復旧には約50億円を費やした。具体的には中央体育館でガラスが割れたり外壁が落下。建て替える余裕なくされた。附属図書館では書架が倒れるなどし、約

復旧には約50億円

149万冊の所蔵資料が落下して損傷した。このほか学内各所では実験装置が破損したり、実験サンプルが使えなくなったりと被害を受け、同会館で予定された卒業式・学位記授与式は中止に。入学式は13日間延期し、陸上競技場で行われた。

学生生活にも大きな影響が及んだ。大学周辺では停電や断水が発生し、学生宿舎や周辺に住む学生が平砂共用棟へ避難した。特に一の矢宿舎ではガス漏れが発生し、ライフラインが寸断。入居者は春日エリアなどに避難した。

天久保公園(つくば市天久保)など市内の公園では給水が行われ、長蛇の列に。市内のスーパやコンビニでは食料品を中心に品薄状態が続いた。



学内に設置されている防災倉庫(11月14日、本部棟北側駐車場で) = 木村誠撮影

大学院生の力作展示

巨大なパネルに油彩で描く

筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程芸術専攻の学生による「第34回MCC展」が11月20～25日につくば美術館(つくば市吾妻)で開催され、学生35人が、洋画22点、日本画35点、版画8点の計65点を発表した。会期中には約900人が訪れた。

中でも注目を集めたのは岡谷春佳さん(芸術前期2年)の作品「私の場所 居間」(11月23日、つくば美術館)で、縦130cm、横162cmのパネルに、祖母がいる居間の様子を油彩で描いた。暖色で塗り重ねられた絵の具の立体感が特徴

MCC展

「私にとって絵は記録のよなもの。常に親しい人物を題材にしている(岡谷さん)という。代表の安岡夕貴さん(同1年)は「展示会が自分の作品に自信を持てるような場になれば良いと思う」と話していた。また、来場した男性は「大学院生の展示会は初めて見たが、レベルが高いと感じた」と話した。(小池凛太郎)比較文化学類1年、写真も



岡谷さんの作品「私の場所 居間」(11月23日、つくば美術館)

筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程芸術専攻の学生による「第15回DC展」が11月13～18日につくば美術館(つくば市吾妻)で開催された。今回は学生12人の洋画、版画、日本画、彫塑、書の50点を展示。会場には多くの人が訪れた。

出展者の一人、笠原浩美さん(芸術後期3年)は幻想的な風景画3点を出品。このうちの「また会える場所」では、綿布を張り付けた縦約1尺、横約4尺

DC展

のパネルに山や樹木を描いた。笠原さんは「散りばめられた光から温かさが感じられる世界観を表現した」と話していた。(加藤優花)



笠原さんの作品「また会える場所」(11月18日、つくば美術館)

国際総合学類1年、写真も

◆おとわの「絶対音感」は休みます。



息の合った演奏をする演奏者たち(11月25日、つくばカピオ) = 同団体提供

まな板やししゃもじで演奏

「筑打！」の定期コンサートが11月25日につくばカピオ(つくば市竹園)で開かれ、観客はバスドラムやマリリンバなどの打楽器による

「筑打！」は筑波大学吹奏楽団、管弦楽団の打楽器パートの有志で構成。年に一度コンサートを行っている。

り、今回は応援部WINGSの打楽器メンバーも参加した。

コンサートは3部構成。第一部は野本洋介作曲「THE BIG DIPPED」で幕を開けた。テンポよく進むマリリンバの軽やかな旋律で始まり、中盤、ゆったりとした旋律に変わる。最後は2つの旋律が合わさり華やかに終わった。

ひときわ会場を盛り上げたのは、作品「キッチンビート」。エフロンと三角中をまとった7人の演奏者が、まな板や鍋などをししゃもじで叩いたり、ししゃもじ同士をくっつけるなどして演奏した。

第三部最後の曲は、打楽器の演奏者としても活躍する濱口大弥氏が作曲した「海神」。ギリシア神話の海

DANCE EXPRESS vol.13

神秘的な世界をダンスで表現

筑波大学ダンス部による「DANCE EXPRESS vol.13」が11月14日、中央体育館ダンス場で

行われた。2部構成の公演には筑波大のダンスサークルや、つくば市のダンス教室など、ダンス部を含む7団体に参加した。

第一部冒頭でダンス部は「feminine」を披露。5人の女性部員がレオタード姿になり、女性らし

くも強くしなやかな生き方を、滑らかな動きで表現した。

また第二部最後でダンス部は「巡礼」を披露。第31回全日本高校・大学フェスティバル(8月)で文部科学大臣賞を受賞した作品で、総勢30人で胎児の誕生

までの過程を演じた。

公演後、ダンス部主将の齋藤瀬奈さん(体専3年)は「集大成の場だった。これからの活動に向けた通過点にした」と発言。訪れた学生の一人は「ダンスのレベルの高さに圧倒された。また来たい」と話した。

ダンス部は来年3月、かめありリリオホール(東京都葛飾区)で公演する。(加藤優花 12面に関連写真)



文部科学大臣賞を受賞した作品「巡礼」(11月14日、中央体育館ダンス場で) = 同部提供

を司る神・ポセイドンを表現した作品で、細かいビーズが入った箱を傾け波のような音を出す「オーシャンドラム」を使ったり、ゴム製のスーパーボールで太鼓の表面をなぞる奏法を用

い、不穏な海の様子を表現した。細いビーズが入った箱を傾け波のよう

演奏にはバスドラムとティンパニの荒々しいリズムも加わり、迫力のある音が会場に響いた。

同団体メンバーの上田哲

也さん(情科3年)は、「幅広いジャンルの曲を演奏した。良い演奏を届けたい気持ちで観客に伝わったならうれしい」と語った。(遠子内早紀)教育学類1年

豚の作品展示

ペットと食肉を対比

小野裕子助教(芸術系)の立体造形作品展示会「Piglicious展」が、大会会館アトススペースで、10月2日から11月3日に開催された。会場には豚をモチーフにした立体作品が展示され、多くの来場者が訪れた。

作品では、木々や草花の中にいる奇麗な豚と、逆さまで由に浮かぶ真っ黒な

豚を一つの作品内で表現。ペットとして可愛がられる豚と、食肉として殺される豚を対比させた。

小野助教は実家が養豚場を営んでおり、これまで一貫して豚をモチーフにした作品を作ってきた。筑波大学附属病院や国際統合睡眠医学研究機構(IIRS)内にも、豚の作品を展示している。

来場者は「豚がテーマの立体作品はあまりないので面白かった。淡い色使いも奇麗で印象的だった」と話した。(越智小夏)



5C棟で越智小夏撮影

俳句 筑波大 「雙峰祭」

息入れて笛よるこぼす秋の昼
秋水の光透ける扇かな
この稿を進めし夜長思はるる

俳人たるもの学祭を振舞いながらも俳句を詠んでしまうから困ったものだ。あれこれとサークルを見て回った中で心惹かれて出来た句をお披露目しよう。一句目、中南米の民族音楽を演奏するフォルクローシ愛好会。二句目、能・狂言研究会の松美池ステジ公演。三句目、筑波大学の会誌「筑波文学」。サークルの皆さんもまさか客が自分たちを俳句にしていたとは思えない。

(文)俳句 堀下翔二 芸芸 言語専攻1年



『ネイティブ・アメリカン—先住民社会の現在』

鎌田遼 著

本書はアメリカ大陸の先住民であるネイティブ・アメリカンの歴史・文化・社会の全体像を示しつつ、経済的にも文化的にも極度な貧困状態におかれた先住民の現状を描き出しています。そこにはネイティブ・アメリカンがマイノリティの中のマイノリティとして政治・経済・文化面で不利益な立場に置かれていること、セイフティネットであるべき公共サービスの網目からも落ちてしまっている事実が書かれています。

私が研究対象とする公共図書館に関していえば、ネイティブ・アメリカンが住む居留地には「部族図書館」と呼ばれる公共図書館がありますが、そのほと

んどが簡素な建物で、中にはトリーラーハウスのような図書館もあります。これらは居留地外にある「本流」の公立図書館からは切り離されて孤立化し不可視化されています。

公共図書館は文化・情報にアクセスする権利をすべての人びとに保障するために存在しています。しかしネイティブ・アメリカンに対する図書館サービスは、150年以上の伝統を誇り世界中がお手本としてきたアメリカ公共図書館ネットワークから、完全に抜け落ちてしまっているのです。図書館の欠落は、先住民社会への侵略と抑圧、差別と排除の歴史の結果です。

更に本書はネイティブ・アメリカンを取り巻く社会問題を提示することで、情報と文化への開かれたアクセスを標榜する図書館情報学の原則に挑戦する深遠な問いを投げかけています。たとえば先住民社会には「取り扱いは注意を要する文化財」と呼ばれる、特定部族の特定の地位

にある人しか見えない情報があります。こうした秘匿情報の中でも略奪によって博物館に収蔵された先住民共同体の「文化財」(返還(repatriation))に関する問題を本書では取り上げています。

情報や文化は一体誰のものなのか、誰がそれを流通させたり提供すべきなのか。この本を読みながら、文化や情報の持つ価値を当事者や共同体を基盤にしつつ相対的に捉えることの難しさを考えさせられます。部族図書館が共同体文化の集積地となることでそこに住む人びとを結びつけ、継承されてきた伝統知識を外部の社会へと発信する場所となる可能性はあるのだろうか。

一方でそうした学術的示唆以上にこの本から得られるもの、それは自然と人間の身体との交流から育まれる先住民文化の豊かさです。それは世界の最周縁から私たちの社会を照らす光であり、その圧倒的な存在感にはただ敬意を払うことしかできないように思えます。

世界の最周縁から社会を照らす光

吉田 右子 教授 (図書館情報学)

図情メ系・教授、東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)。図書館情報学助手を経て、2011年より現職。

図情メ系・教授、東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)。図書館情報学助手を経て、2011年より現職。

筑波大 AD とは何か



筑波大学は4月、大学が運動部の運営に関わる組織「アスレチックデパートメント(AD)」を設立した。米大学のADを参考にしながら、関係者は「日本に合った独自のものにする」と話している。筑波大ADがどのようなものになるのか、将来像は見えないまま。関係者に取材した。

(秋田耕平、飯田健介(社会学類、明石尚之(体育専門学群))

各運動部が「タコツボ化」

大学運動部の現状と問題点

筑波大ADスポーツアドバイザー

部も多い。佐藤氏は「(もはや)大学が責任を取らない姿勢では限界だ」と指摘する。

米国のほとんどの大学は、学長直轄の組織である「AD」を設けており、学生が学業と競技に集中できる環境整備や、大学スポーツを利用したビジネスをする。そのため、専任の職員が加入している運動部を「一括して管理している」。

「ミニストレーターの佐藤壮二郎氏によると、日本の大学の運動部はこれまで、部の「自治」で運営されてきた。その活動は「自主的な課外活動」という扱いで、大学が直接、運営に携わらない場合がほとんど。運営は主に部費やOB・OG会費で賄われてきたが、資金不足に悩まされている運動部はあくまで自主的な課外活動という扱いのため、危機管理体制が十分ではない」とも指摘する。

一方、早稲田大学スポーツ科学学術院の友添秀則教授は大学スポーツについて「成功や失敗、挫折、人間関係の難しさなど、実社会で将来、経験していくようなことを、スポーツを通じて大学で集約的に経験できる」。

筑波大AD

「安全安心」掲げ取り組む

筑波大ADは当初、男女ハンドボール部、硬式野球部の3部が参加して始まったが、10月には男女バレーボール部も加わり、現在5部で構成。米大学のADを参考に、第一に「学生の安全安心」を掲げ、各部と協議しながらさまざまな取り組みを行ってきた。

この中で5月には、アスレチックトレーナーを雇用。学生のけがなどの救急処置だけでなく、健康管理や障害予防なども行っている。その一例としてあげられるのは、熱中症予防だ。夏の間は、最も暑い正午から午後3時の練習を禁止するよう提案。1日のトレーニング時間も最大5時間に制限した。佐藤氏によると、硬式野球部では例年多かった熱中症の部員が、今年は激減したという。また、けがや事故を防ぐためのガイドラインの策定も予定している。

一方、筑波大はAD設立に先駆け、16年11月、芸術専門学群と協力しスポーツエンブレムを作成した。筑波大ADが担うという。



筑波大ADの入るグローバルスポーツインベーション棟(5月4日、体芸エリアで) = 益本健太撮影

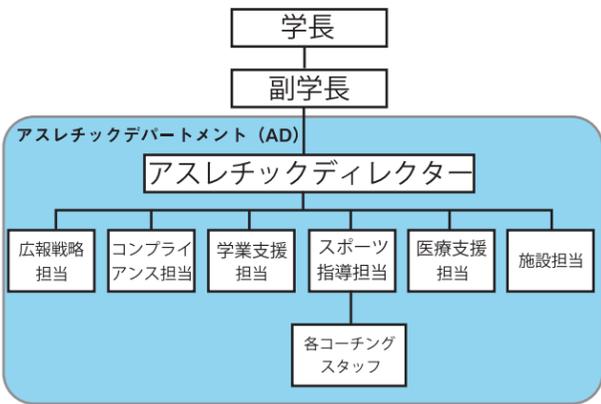
報戦略強化の一環で、12月にも情報学群とともにADのニュースサイトを立ち上げる予定だ。

筑波大ADは現在、米国内に拠点を設けている。米国内に拠点を設けている。米国内に拠点を設けている。

米国のAD

米国のほとんどの大学は、学長直轄の組織である「AD」を設けており、学生が学業と競技に集中できる環境整備や、大学スポーツを利用したビジネスをする。そのため、専任の職員が加入している運動部を「一括して管理している」。

米大学のアスレチックデパートメントの一例



米大学ADの資料を元に本紙作成

蹴球部の取り組み

一方、筑波大の蹴球部は、筑波大ADに参加しない方針だ。同部主務の野中葉佑さん(体専4年)は「蹴球部の伝統的な自主運営は維持したい」と話す。現在、部員は練習や競技だけでなく、全員が「会計局」「総務局」「広報局」「用具局」などの管理部門10局のいずれかに配属され、仕事を与えられている。例えば、その一つ「普及局」は地域貢献活動が目的で、現在、地域の少年サッカーチーム12団体に部員をコーチとして派遣。週2、3回練習の指導を行っている。



地域のサッカー少年団に指導を行う蹴球部 = 同部提供

「自主運営を続けたい」

表の藤尾悠河さん(社会学3年)によると、これまでスポンサー獲得のため100社以上に話を持ち掛け、14社がスポンサーになった。スポンサーは提供資金額に応じて、公式戦のユニフォームなどに自社のロゴなどを付けられる。学生主体で集めたスポンサーによる資金援助は大学運動部では前例がないという。

視点

「自主運営を続けたい」と話す。蹴球部は、このようにADならば、上述のような問題を防いだり、解決することでき、大学スポーツの価値を高めることができるのではないか。無論、ADの成功には学生や関係者の理解が不可欠だ。座談会では、筑波大ADの方針が学生に正しく伝わっていないことが浮き彫りとなった。学生への丁寧な説明が求められる。筑波大はこれまで大学スポーツの大きな牽引車だった。今回のAD設立を契機に、筑波大の運動部だけではなく、大学スポーツ全体の改革が進むことを期待したい。(明石尚之)

大学スポーツの改革 必須

「蹴球部の取り組み」は、筑波大ADに参加しない方針だ。同部主務の野中葉佑さん(体専4年)は「蹴球部の伝統的な自主運営は維持したい」と話す。現在、部員は練習や競技だけでなく、全員が「会計局」「総務局」「広報局」「用具局」などの管理部門10局のいずれかに配属され、仕事を与えられている。例えば、その一つ「普及局」は地域貢献活動が目的で、現在、地域の少年サッカーチーム12団体に部員をコーチとして派遣。週2、3回練習の指導を行っている。

全国に先駆けた支援体制



友添秀則教授

早稲田大の取り組み

早稲田大は、早稲田大ADという名称は使わなかったが、早稲田大は2003年、各運動部を統合し、学内外と連携しながら大学スポーツを振興する「競技スポーツセンター」を設置。現在は44の運動部(WAP)も開始。「アカ」

「蹴球部の取り組み」は、筑波大ADに参加しない方針だ。同部主務の野中葉佑さん(体専4年)は「蹴球部の伝統的な自主運営は維持したい」と話す。現在、部員は練習や競技だけでなく、全員が「会計局」「総務局」「広報局」「用具局」などの管理部門10局のいずれかに配属され、仕事を与えられている。例えば、その一つ「普及局」は地域貢献活動が目的で、現在、地域の少年サッカーチーム12団体に部員をコーチとして派遣。週2、3回練習の指導を行っている。

「蹴球部の取り組み」は、筑波大ADに参加しない方針だ。同部主務の野中葉佑さん(体専4年)は「蹴球部の伝統的な自主運営は維持したい」と話す。現在、部員は練習や競技だけでなく、全員が「会計局」「総務局」「広報局」「用具局」などの管理部門10局のいずれかに配属され、仕事を与えられている。例えば、その一つ「普及局」は地域貢献活動が目的で、現在、地域の少年サッカーチーム12団体に部員をコーチとして派遣。週2、3回練習の指導を行っている。

大学スポーツ

Hello! 先端研究



佐田亜衣子助教

人体の皮膚を始めとする臓器などの細胞は、元々は幹細胞という細胞が変化してできたものだ。iPS細胞もその一種だが、これまで体内にある幹細胞の分裂の頻度は低いとされてきた。細胞が分裂した場合、細胞の老化や老化につながる

筑波大ADについて、運動部の学生はどう考えているのか。筑波大ADの佐藤二郎氏を迎え、ADに所属する硬式野球部の系数格朗(体専3年)、ADに未加入の蹴球部の齋田武蔵(同3年)と藤尾悠河(社学3年)、体育会執行委員会で委員長を務める神田敬邦(体専3年)の学生4人が座談会を行った。(撮影・飯田健介)

座談会

筑波大ADをどう思うか。系数 現在、練習の管理をADが雇用したトレーナーに行ってもらっている。

齋田 ADが今取り組むのは大学として各部の活動を

体育会とは

筑波大学には運動部や同好会など71団体がある。体育会とは、その執行委員会

は、所属団体に会費を求めたうえで、大学と施設の整備などの交渉に当たるが、筑波大ADとの役割分担は

どうなるのだろうか。体育会の現状を調べた。

体育会は大学に、施設の整備や所属団体が「筑波大

トレーナーが練習を監修

広報できることだ。蹴球部は、部として情報発信を

計画は昨年9月ごろ初めて

神田 筑波大のAD創設

1月にAD関係者と話し合

の活動の評価している。

ADに入っている変化

佐藤 当初、学生や教員

に「AD＝黒船来航」のよ

うに思われていた。ADは

筑波大が設立を提唱したも

のだが、当時の筑波大です

ら、ADのアドバンス

で、小学生を対象に開いた

野球場で、公式戦のユニ



座談会に臨む参加者ら

ADへの認識にズレ

昭和から平成へ時代が

変わったのは大学1年生

の時。追越学生宿舎の部

屋にあった14インチのア

ラウン管テレビで小閲覧

房長官の会見を見ていま

した。皆さんは改元の記

者会見を宿舎の部屋にあ

る液晶テレビで、そして

一方、部の運営は現在も学

生が主体。ADは健康管理

など自分たちができなかった

ことを支援するだけで

で、学生の自主運営に変わ

りはない。

「そもそも学生はAD

を理解していますか。

佐藤 当初、学生や教員

に「AD＝黒船来航」のよ

うに思われていた。ADは

筑波大が設立を提唱したも

のだが、当時の筑波大です

ら、ADのアドバンス



筑波大ADの佐藤氏

解がある。

体育会とADは運動

部をまとめるという意味で

は似ています。

神田 ADは加入の運動

部には人材や物品などで支

援を行う。体育会ではでき

ないことで、双方は良い関

係

は「みんなが筑波大の目

標

は「みんなが筑波大の目

標

体が所属しており、筑波大

ADが資金面や人材面で全

運動部をカバーするのは厳

しいが、安全対策のガイド

ラインなどは共有したい。

「これまで筑波大は体

育会や部が独立して活動し

てきました。

神田 本来、体育会は構

成員相互の親睦と理解を深

めるのが役割だと思っています。

系数 硬式野球部の中で

は「ほかの運動部の運営や

競技への取り組み方を聞い

てみたい」との声があるが、

実際に聞く機会がない。自

分たちの取り組みをほかの

運動部に話す機会もなかつ

た。ADにはほかの運動部と

つなげる役割を期待した

い。

「平成のツール」と「新

元号」ツール」が使えま

す。是非、「つながり」を

意識して有意義な『筑

波生活』を「送」って下

さい。

「つながり」を大切に

幹細胞の定説覆す発見

老化、がん化の解明へ光

がん化の仕組みの解明に

つながる可能性が出てい

る。ノーベル賞を得た山中

た。佐田助教は現在、実験

で得た結果を手がかりに

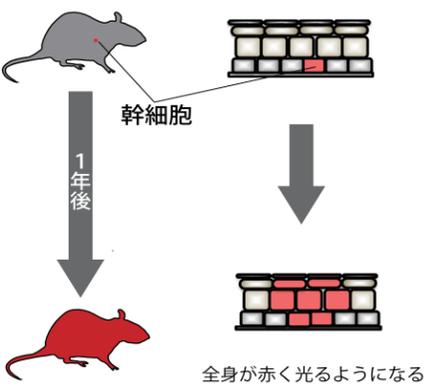
分裂頻度が高い細胞が老

化やがん化にどのように

関与するかを研究してい

る。関与の仕組みが明

実験のイメージ



全身が赤く光るようになる



日本経済新聞社 クロスメディア営業局営業部 部長 門山厚希 さん

「つながり」を意識し

ました。

「つながり」を大切に

自分自身

を助けてくれます。

(平成3年度社会学類卒)

講道館杯

男子90キロ級 田嶋が準優勝



ベイカーに対し、果敢に一本背負投を仕掛ける田嶋(右) (11月4日、決勝で)

柔道



2日目の男子90キロ級、3 なた田嶋は、準決勝で村尾 回戦まで全て一本勝ちで進 三四郎(桐蔭学園高)と対

【千葉ポートアリーナ(千葉市中央区)で池田花於里II比較文化学類2年、写真も) 体重別日本一を決める講道館杯が11月3、4日に行われた。男子90キロ級の田嶋 剛希(体専3年)は、決勝でリオデジャネイロ五輪金メダリストのベイカー(日 本中央競馬会)を追い詰めたが延長戦で惜しくも敗れ、準優勝に終わった。

五輪金メダリストに肉薄

戦。村尾の足技に対し、田嶋が投技で応戦する展開が続き、中盤にはその攻防が激しくなりました。田嶋は一本背負投で技ありを奪い、残り33秒でベイカーに大内刈で技ありを奪われ、延長戦に持ち込まれた。延長49秒に田嶋が大外刈を仕掛けたところ、反対にベイカーに小外掛で技ありを奪われ、田嶋は準優勝に終わった。

田嶋は「ベイカー選手はスーパースターだが、思っていたよりも健闘できた。自分の実力は伸びており、世界レベルが見える位置に来た」と話した。技術面に

決勝の相手は五輪金メダリストのベイカー。互いに積極的な攻めを見せ、一進一退の展開に観客が沸いた。中盤に、田嶋が一本背負投で技ありを奪い、残り33秒でベイカーに大内刈で技ありを奪われ、延長戦に持ち込まれた。延長49秒に田嶋が大外刈を仕掛けたところ、反対にベイカーに小外掛で技ありを奪われ、田嶋は準優勝に終わった。

佐々木が優勝 グランドスラム大阪が、11月23-25日に丸善インテックアリーナ大阪(大阪府市南区)で行われた。男子81キロ級で佐々木健志(体専4年)が優勝し、来年の世界選手権(東京)への出場に一歩近づいた。



攻守で活躍した井上(右) (11月4日、大東文化大戦で) =加藤優花撮影

【筑波大学中央体育館で益本健太II人文学類3年、加藤優花II国際総合学類1年、関東大学1部リーグ戦が9月1日から11月11日まで行われた。筑波大は14勝8敗で4位となり、全日本大学選手権(インカレ)出場を決めた。また、増田啓介(体専3年)が優秀選手

賞と得点を獲得した。筑波大は11月4日に昨年大東文化大と対戦した。絶対調の井上宗一郎(同1年)が攻守に活躍したほか、ディフェンスが機能し、65-53で勝利した。

第1ピリオド、筑波大はディフェンスが機能特に井上は相手エースのモッチ・ラミン(大東文化大)を体張ったディフェンスで抑えた。一方、攻撃では得点を重ねられず、12-15で第1ピリオドを終えた。

第2ピリオドでは、牧集利(同3年)の連続得点のほかにフリースローを確実に決め、一時は流れをつかんだ。だが、終盤に大東文化大に立て続けに得点を許し、31-28で前半終了。

大東大に勝利 4位で終える 井上攻守に渡り貢献

関東大学リーグ戦 筑波大は11月4日に昨年大東文化大と対戦した。絶対調の井上宗一郎(同1年)が攻守に活躍したほか、ディフェンスが機能し、65-53で勝利した。

第3ピリオド、大東文化大の猛攻で点差を詰められ、残り3分25秒で同点に。だが、その後は井上が次々とシュートを決め、46-42と再び点差を広げた。



インカレをテーマに語り合う元主将の藤岡(右)と現主将の高辻 (11月7日、JX-ENEOS サンフローズひまわり寮で) =明石尚之撮影

女子バスケット対談 藤岡麻菜美×高辻真子

「憧れの場」「大学で日本一になるチャンスは「どこかはない」。2015年の全日本大学選手権(インカレ)で優勝を果たした筑波大女子バスケットボール部。当時の主将で現在はJX-ENEOSサンフローズや日本代表で活躍する藤岡麻菜美(平成27年度体育専門学群卒)と、当時1年生で現主将の高辻真子(体専4年)が、12月10日-16日に行われる第70回記念大会を前に、インカレにける思いを語り合った。

「憧れの場」「大学で日本一になるチャンスは「どこかはない」。2015年の全日本大学選手権(インカレ)で優勝を果たした筑波大女子バスケットボール部。当時の主将で現在はJX-ENEOSサンフローズや日本代表で活躍する藤岡麻菜美(平成27年度体育専門学群卒)と、当時1年生で現主将の高辻真子(体専4年)が、12月10日-16日に行われる第70回記念大会を前に、インカレにける思いを語り合った。

「憧れの場」「大学で日本一になるチャンスは「どこかはない」。2015年の全日本大学選手権(インカレ)で優勝を果たした筑波大女子バスケットボール部。当時の主将で現在はJX-ENEOSサンフローズや日本代表で活躍する藤岡麻菜美(平成27年度体育専門学群卒)と、当時1年生で現主将の高辻真子(体専4年)が、12月10日-16日に行われる第70回記念大会を前に、インカレにける思いを語り合った。

「憧れの場」「大学で日本一になるチャンスは「どこかはない」。2015年の全日本大学選手権(インカレ)で優勝を果たした筑波大女子バスケットボール部。当時の主将で現在はJX-ENEOSサンフローズや日本代表で活躍する藤岡麻菜美(平成27年度体育専門学群卒)と、当時1年生で現主将の高辻真子(体専4年)が、12月10日-16日に行われる第70回記念大会を前に、インカレにける思いを語り合った。

「憧れの場」「大学で日本一になるチャンスは「どこかはない」。2015年の全日本大学選手権(インカレ)で優勝を果たした筑波大女子バスケットボール部。当時の主将で現在はJX-ENEOSサンフローズや日本代表で活躍する藤岡麻菜美(平成27年度体育専門学群卒)と、当時1年生で現主将の高辻真子(体専4年)が、12月10日-16日に行われる第70回記念大会を前に、インカレにける思いを語り合った。

「憧れの場」「大学で日本一になるチャンスは「どこかはない」。2015年の全日本大学選手権(インカレ)で優勝を果たした筑波大女子バスケットボール部。当時の主将で現在はJX-ENEOSサンフローズや日本代表で活躍する藤岡麻菜美(平成27年度体育専門学群卒)と、当時1年生で現主将の高辻真子(体専4年)が、12月10日-16日に行われる第70回記念大会を前に、インカレにける思いを語り合った。

「憧れの場」「大学で日本一になるチャンスは「どこかはない」。2015年の全日本大学選手権(インカレ)で優勝を果たした筑波大女子バスケットボール部。当時の主将で現在はJX-ENEOSサンフローズや日本代表で活躍する藤岡麻菜美(平成27年度体育専門学群卒)と、当時1年生で現主将の高辻真子(体専4年)が、12月10日-16日に行われる第70回記念大会を前に、インカレにける思いを語り合った。

早稲田大に惜敗

全日本学生選手権 全日本学生選手権が11月9-14日に丸善インテックアリーナ大阪(大阪市港区)などで行われた。優勝候補の筑波大は準々決勝で早稲田大と対戦し、延長戦の末、31-33で惜敗した。

筑波大は序盤から主将の牧野イサム(体専4年)を中心としたディフェンスで中心に得点を重ね、15-10で前半を終えた。

吉田健司監督(体育系・准教授)は「モチベーションが昨年からの課題。今回は井上がうまく対抗した。今後は堅い守備からの速攻という筑波大らしさを改めて意識したい」と語った。

にミスを通算し、早稲田大に猛攻を許した。12分に3点差まで追いつかれると終了間際に3連続得点を許し、29-29で延長戦へ。

明治神宮大会 12年ぶりの出場果たす



9回表に中前打を打ち好機を演出した篠原(11月10日、近畿大戦で)

【明治神宮野球場(東京都新宿区)で牧田宗大(社会2年、写真も)】全国各地の大学連盟から選出された代表11校で争う明治神宮大会が11月9-14日に行われ、12年ぶりの出場を果たした筑波大は、11月10日の1回戦で近畿大と対戦した。エースの村木文哉(体専2年)と守護神の加藤三範(同2年)が相手打線を6安打2失点に抑えたが、攻撃ではチャンスを生かせずわずか1得点。優勝した1987年以来31年ぶりの勝利はならず、1-2で惜敗した。

野球

左翼手の中島準矢(同4年)がタッチアップした走者を捕殺するなど守備陣も好守で盛り立てた。3回まで無失点で切り抜けた村木だったが、4回

2点を追う筑波大は最終回、2死二塁で篠原(同3年)が中前打で2死一三塁の好機を演出。続く代打、片岡心(同1年)の左前打で初得点を決めた。1点差まで詰め寄り、この試合3安打の種子島大輝(同4年)が打席へ。だが中飛に終わり、試合終了。1点差で惜しくも敗北した。川村卓監督(体育系・准教授)は「もう少し早く点を取らなければ、チャンスを生かしきれなかった」と話した。

観戦記

12年ぶりの出場となった明治神宮大会での勝利を1点差で逃した筑波大。勝敗を分けた要因は、川村卓監督(体育系・准教授)の言葉にもあるように攻撃で「チャンスを生かしきれなかった」と話した。近畿大の残塁が3だったのに対し、筑波大はそれを大きく上回る11。安打数、四球数ともに相手を上回っていたが、打線のつながりを欠いた。その象徴が8回



エースの村木(11月10日、近畿大戦で)

チャンス生かせず

三塁打からの飛球など長打を起点とした攻撃を見せた一方、筑波大の長打は0本。川村監督は「相手投手の研究

「守り勝つ野球」は端々から見えた。2回裏のピンチを捕殺でしのいだ左翼手・中島準矢(体専4年)ら矢張り、ルーキーの佐藤隼輔(同1年)の活躍が光った。野手陣の成長も目立った。川村監督は「春は打てない人と打つ人の差がはっきりしていたが、秋になっても下位打線もつながるようになった。特に最終回の攻撃での粘りは今まで見られなかった」と話した。こうして投打のかみ合いが12年ぶりの明治神宮大会出場を

「守り勝つ野球」は端々から見えた。2回裏のピンチを捕殺でしのいだ左翼手・中島準矢(体専4年)ら矢張り、ルーキーの佐藤隼輔(同1年)の活躍が光った。野手陣の成長も目立った。川村監督は「春は打てない人と打つ人の差がはっきりしていたが、秋になっても下位打線もつながるようになった。特に最終回の攻撃での粘りは今まで見られなかった」と話した。こうして投打のかみ合いが12年ぶりの明治神宮大会出場を

スポーツの顔

野球

今年11月、12年ぶりに明治神宮大会への出場を果たした筑波大硬式野球部。抑え投手として躍進の原動力となった。10月まで行われた首都大学秋季リーグ戦では28回を投げ自責点はわずか1。準優勝に貢献し、ベストナインにも選出された。

は中学一年の時。東日本大震災の復興のため岩手で開催されたプロ野球オールスターゲームを観戦し、選手のアレに勇気もらった。そこで自分も子どもに希望を与えるプロ野球選手になると決意した。

最後の夏に結果を残せず、「このままではプロになれない」と不安に思っていた時、恩師・佐々木洋監督に「4年後に大学からプロに行け」と言われた。これで闘志に火が付いた。大学入学までの間、「自分の弱さ」を徹底的に分析し、下半身の強化など重点的に行った。「大学でどう活躍するかを常に意識した。監督の言葉は今でも心に残っている」という。筑波大に入学を決めたのは、佐々木監督の勧めで練習に参加した際、チームの和や練習の雰囲気「惚れ込んだ」ためだ。入学直後から多くの登板機会を与えられ、安定感のある投球を見せた。



首都大学秋季リーグでベストナイン投手 加藤三範(体専2年)

2年生になった今年是不動の守護神として君臨した。12年ぶりの明治神宮大会出場をかけた10月の関東地区大学選手権では、準決勝・神奈川大戦の7回2死二塁からマウンドへ。持ち前の精神力の強さで後続を無失点に抑え、勝利に貢献。明治

最終節 駒大に4年ぶり敗戦

関東大学リーグ戦



ドリブルで相手を振り切る知久(左)(11月24日、駒澤大戦で)

【柏の葉公園総合競技場(千葉県柏市)で飯田健介(社会2年、写真も)】12月4日から行われていた関東大学リーグ戦が11月25日に閉幕した。昨年優勝した筑波大は一時最下位に沈むなど低迷し、8位で前期を折り返したが、後期は本来の調子を取り戻し、年間成績は11勝5分6敗。2連覇は達成できなかったが、2位で大会を終えた。また、角田涼太郎(体専1年)が新人賞、鈴木徳真(同4年)がベスト

サッカー

ヒーロー賞、三番薫(同3年)が特別賞とベストイレブンに選出された。第20節時点で2位が確定していた筑波大は24日の最終節で駒澤大と対戦し、0-1で惜敗。駒澤大に4年ぶりの敗戦を喫した。前半、筑波大は三番薫を中心に攻撃を仕掛けたが、ゴールを奪うことができなかった。主導権をつかみ損ねると、前半36分、自陣でのミスから駒澤大にボールを奪われ、そのままシュートを打たれた。キーパー阿部航斗(同3年)が防いだ

自陣でのミスから失点

が、こぼれ球を詰められ

失点。リードを許したまま前半を終えた。後半は攻防が激しく入れ替わる展開に。守備では攻め込まれ、鈴木徳真(同4年)を中心に守り切り、ゴールを許さなかった。一方、攻撃陣は両サイドから知久航介(同2年)と三番薫が中心となり積極的な攻勢を仕掛けたが、ゴールの枠を捉えることができず、そのまま試合終了。0-1で惜敗した。小井土正亮監督(体育系・助教)は「全日本選手権(インカレ)前に結果を残して弾みをつけたい。インカレに向けて、課題を修正して大会に臨みたい」と語った。

進化続ける「守護神」

高校は地元岩手県の名門・花巻東高校に進学。慣れない一人暮らしや厳しい寮生活に耐え、日々練習に明け暮れた。2年時にはチームの主力に成長し、夏の甲子園では2回戦・敦賀気比高校戦に

に臨んだ。迎えた初戦に格下相手にチームはまさかの敗戦を喫した。自身は登板の機会なく引退となり、「初戦敗退は想像もしておらず、言葉が出なかった。とても悔しい思いをした。」

守護神

2年生になった今年是不動の守護神として君臨した。12年ぶりの明治神宮大会出場をかけた10月の関東地区大学選手権では、準決勝・神奈川大戦の7回2死二塁からマウンドへ。持ち前の精神力の強さで後続を無失点に抑え、勝利に貢献。明治

大阪大・名古屋大の取り組み 子育てと研究の両立支援



大阪大学の一時預かり保育室(同大提供)

大学での子育てと学生の支援体制が課題となる中、大阪大学や名古屋大学は、保育園など子どもの預け入れ体制や、トイレでのベビーチェアやオムツ替えシートの設置などで先進的な取り組みを行っている。両大学を取材した。

大阪大学
平成29年度から、3つのキャンパス全てに一時預かり保育室を設置。民間業者のベビーシッターを呼ぶのではなく、保護者の同伴の必要はない。利用料の約半額を大学が負担し、2時間2000円で利用できる。



名古屋大学

平成23年度に、日本初として大学内に小学生を預ける学童保育所を設置。小学校の終業時に、同保育所が契約したタクシーが児童を各小学校まで迎えに行くほか、到着をメールで保護者に知らせる。今年度の利用者は11月までに167人で、うち30件が学生だった。

一方、大学のトイレには平成19年度以降、オムツ替えシートとベビーチェアも設置。現在、全学で13箇所あり、設置場所はウェブサイトで確認できる。

同大担当者は「子育て学生など、若手研究者の支援は重要。難しい事例もあるが、できるだけ要望に応えたい」と話す。

平砂地区で不審者

10月28日午前0時30分ごろ、平砂学生宿舎1号棟横で筑波大学の女子学生が不審な男に胸を触られた。女子学生によると、男は駅から一人で帰宅途中、自転車で乗った男が肩が触れる距離まで近づいてきた。男は女子学生の胸を触り、そのまま走り去ったという。

事件当時、女子学生はイヤホンをつけて音楽を聴いていたため、男がそばに近づいてきたことに気づいていなかった。女子学生は「気が動転した。とても気が悪く、怖かった」と話した。

学生生活課によると4月10月末で、同課に報告された学内での不審者による事件は2件だった。また、昨年には、一矢学生宿舎の敷地内で女子学生が不審な男に抱きつかれる事件も発生している。(森賀遼太)

留学生の声

エジプト
ヌール・ラマダーン
(人文学類)



9月、エジプトのアイ

ン・シャムス大から人文学類に留学。日本語と日本の文化を学んでいる。日本に興味を持ったのは高校2年生の時。母国エジプトで放送されたテレビ番組がきっかけだった。アラブ圏で人気の「カワテル」という番組で、育所(つくば市天久保)は同大の担当者は「女性研究者を増やすために、子育て支援を拡充している」と話している。

和太鼓と日本文化を学ぶ

和太鼓と日本文化を学ぶ

区からのDHC賞は小柴さんと高橋さんに、スマートフォンアプリなどの制作会社の穴熊(東京都新宿区)からのピフォ賞は大峠さんと、高橋さんに贈られた。

松美記念

社会学類の学生が馬やその年の話題の人物などに扮して松美上池で競走する「第23回松美記念」が4日行われ、約20人が参加した。

ペデで衝突事故

全治1カ月以上
11月13日午後1時30分ごろ、松美記念は出場者が松美上池に入り、泥沼の中を1着と2、3年生が複数人のチームで競走する「本馬戦」が行われる。出場者は冷たい水と、泥やその臭

秋空に「映える」3日間

第44回雙峰祭 350以上の企画実施

第44回筑波大学学園祭(雙峰祭)が11月2-4日に開催され、学生団体の模擬店や演舞、教職員による講演会など350以上の企画が行われた。今年のテーマは「#くはびら」。その中で、特に盛り上がった3つの催しを取材した。



「ミスキャンパス」に輝いた高橋さん(11月2日、石の広場で) = 國井俊介撮影

前夜祭

前夜祭は3日午後、石の広場に設置された「UNI TEDステージ」でスタート。午後3時30分から「E.L.L.」(筑波音楽協会)、「つくはフォーク村」の3団体の合同ライブや、「Aster」を義で活動する金子紫苑さん(メロ2年)によるドラムのソロパフォーマンスで祭りの始まりを演出した。

つくコレ

前夜祭を盛り上げたのが、午後7時40分からの「TSUKUBA COLLECTION 2018」(つくはフォーク村)の3パフォーマンス。つくコレでは「ミスキャンパス」に輝いた高橋さん(メロ2年)が、今年ミス部門に3人、ミス部門に4人が立候補した。



「ミスキャンパス」の大峠さん(11月2日、石の広場で) = 國井俊介撮影

大峠さんは「SNSでの交流に力を入れた。応援してくれた方々に感謝の気持ちでいっぱいだと話した。高橋さんは「うれしいと同時にほっとした。ツイッターを使い応援者の身近な存在になれるように頑張った」と話した。

更には午後6時から「筑波大学斬桐舞」が力強いよさこいを披露。最後の「うらじゃ音頭」では、観客も踊りに参加した。

結果発表は4日に同ステージで行われ、ミスキャンパスに高橋南さん(化学2年)、ミススターに大峠和基さん(メロ4年)が輝いた。

「ペデ」は「前の自転車をよける際に、歩行者が優先。歩行者がいる際には、自転車は徐行するなど、十分配慮してほしい」と注意を呼びかけている。(森賀遼太) 写真)

新手口 全国で横行

自動車盗難 数分の犯行が特徴



本紙実験で使用したスマートキーと密封可能な鉄製の缶(11月24日、千葉県木更津市) = 木村誠撮影

【一面参照】スマートキーの出す微弱電波を利用する新たな自動車盗難の「新手口」が全国的に横行している。手口が使われ始めたのは数年前とされるが、つくばは中央署によると茨城県内ではこの手口による被害の実態は明らかになっていない状況だ。同署では車に乗らない場合は、スマートキーの微弱電波を遮断した形で保管するよう呼びかけている。

同署によると、リレーアタックは複数人で、1人が運転者に近づいたり、者が持つスマートキーの電波を増幅。これを仲間が持つ別の特殊機器で中継し、標的の車に発信する。すると、ドアが解錠された状態になってしまふ。

この手口は、犯行が数分と極めて短く、物音がしないため周囲に気づかれにくいのが特徴。報道によると、すでに2013年には中部地方で、この手口の事件が発生したという。対策として同署では、電波を遮断できる市販の専用の容器でスマートキーを保管することを推奨。また「密閉可能な鉄製の缶や保冷バッグなどでも一定程度効果が見込まれる」と(同署)と話す。

波を増幅。これを仲間が持つ別の特殊機器で中継し、標的の車に発信する。すると、ドアが解錠された状態になってしまふ。

鉄製の缶で防止

本紙は、リレーアタックの防止策の一つとされる「密閉可能な鉄製の缶」にスマートキーを保管する「方法」の効果を検証した。まず、国産の普通乗用車のスマートキーを使い、車のドアノブ横のボタンを押して解錠できることを確認。その後、鉄製の缶の空き箱にスマートキーを入れて蓋をし、箱を車に近づけた。すると、ボタンを押しても解錠できなかった。

14組がネタを披露

ツクバお笑いグランプリ

筑波大学生が主催するお笑いイベント「ツクバお笑いグランプリ2018」が11月11日、ノバ小ホール(つくば市吾妻)で開催された。5回目の今回は、14組が出場。漫才やコントなどを披露し、来場した約100人が笑いの渦に包まれた。



優勝した「アイル・ビー・ハヤト」(11月11日、ノバ小ホール)

したショートコントを披露。小田さんが演じる乗る岡田さんを駅ホームに無理やり押し出し、取り残された岡田さんをばかにするネタは、会場を大いに沸かせた。

【一面参照】「第38回つくばマラソン」が11月25日に開催され、フルマラソンと10キロ合わせて約1万5000人が参加した。男子フルマラソンの部は黒田雄紀選手(神奈川県)が2時間18分13秒で優勝。女子の部は松本恭子選手(田所涼教育学類1年)が優勝した。

催事 DoorWoopライブ

2019年1月20日(日)に筑波大学アカペラサークルDoorWoopのアカペラステージライブ「追真がつくばカピオホール(つくば市竹園)」で開催される。午後4時開演、午後4時30分開演、午後7時30分終演。会員から厳選された8バンドが出演。入場は無料。問い合わせE-Mail: dw.winterlive@gmail.com(担当:木村) ツイッター: @dw_winterlive

つくばマラソン

1万5千人が力走

【一面参照】「第38回つくばマラソン」が11月25日に開催され、フルマラソンと10キロ合わせて約1万5000人が参加した。男子フルマラソンの部は黒田雄紀選手(神奈川県)が2時間18分13秒で優勝。女子の部は松本恭子選手(田所涼教育学類1年)が優勝した。

パチキン先生 1月で終了

3年間の連載に幕

筑波大学新聞で連載された、大きな反響を呼んだ4コマ漫画「パチキン先生」は、来年1月発行の347号で連載を終了する。作者の姉崎信さん(平成28年度)

心理学類(少)が都内の大学を修了し、来年4月に就職するためだが、3年間の連載は同紙の4コマ漫画で「パチキン先生」は、公に、コミカルな校長先生

「パチキン先生」の連載を終了する。本紙は来年4月発行の348号から連載を始める。1月31日締め切り。応募条件や質問などは、メール(shibun@un.tsubakuba.ac.jp)まで。

や教育実習生のほか、「登坂(サカ)くん」「雛(ヒナ)ちゃん」ら小学6年生が登場。彼らのやり取りを描いた。

「パチキン先生」の連載を終了する。本紙は来年4月発行の348号から連載を始める。1月31日締め切り。応募条件や質問などは、メール(shibun@un.tsubakuba.ac.jp)まで。



作者の姉崎信さん

書く場

墨汁の香りと静寂が広がる放課後の教室。10人程度の部員が筆を取り、半紙と向き合う。楷書や行書、甲骨文字など、様々な文字が溢れる空間で書道部は活動している。

その隣の半紙には大きく「吟」の一文が。地元の日本料理屋に依頼され、店の看板を書いているという。普段は手本を忠実に再現するが、創作の場合は、文字の雰囲気や合った字形、線の濃さや太さ、空白の取り方などを一から考えて書く。瀬邊さん



放課後の教室で作品作りに励む部員(11月20日、6A棟)

書展に加え、雙峰祭では、書道パフォーマンスと共に行う。ポスター、歌詞に合わせた文章を約450枚×約2600枚の巨大な半紙に書くもの。約10人の部員が交代で筆を取り、書く時以外には曲に合わせて踊り、観客を盛り上げる。

書道部

仲間と美しい文字を紡ぐ

馬さん(日目1年)だ。半紙には「温和亮以清」。端正な楷書で書かれた五文字は「心優

毎年夏ごろから、雙峰祭の書展に向けて作品作りに励み、展示する作品の

通常の筆の2倍大きい筆を使って、立ち上がった書いたり、絵具やスプレーで装飾するなど、静かな書道の印象が覆るパフォーマンスだ。部員の阿久津智晃さん(生物3年)は「人前で書くことが新鮮だった」と話した。

Who's Who?

毎日往復 120 ㎞ を自転車通勤

小嶋 岳 さん (体専3年)



片道 60 ㎞ の通学路を漕ぎ終えた小嶋さん (11月26日、体芸エリアで)

実家・宇都宮から筑波大学まで片道60㎞の道を毎日2時間半かけて自転車通勤する。自分の限界に挑戦するため、雨降りの日も含め、年間続けている。疲労感よりも冬の寒さの方が辛いと話すが、人並外れた体力と精神力の持ち主だ。

朝は5時半に家を出発。強風の朝は、防寒対策を講じて、万が一の事故に備えたドライブレコーダーを体に巻き付けたまま自転車を漕ぐ。信号が多い市街地を抜けて10㎞を超えた辺りから、体が温まってくる。そこからは、筑波山から昇る朝日を横目に南下。「ちょうど筑波山の頂上に朝日があり、奇麗に感じる」。起伏のある細道を抜け、8時に筑波大に到着する。往路は比較的ならかな道を通るが、復路はあえて起伏の激しい山道に挑む。最大の難所は栃木県真岡市二宮。「疲れてきたころに起伏が訪れるので、心身ともに辛く感じる」。

並み外れた体力と精神力 自分の限界に挑戦続ける

自転車通勤のきっかけは、大学から始めたトライアスロンだ。体育専門学群には、2年間の浪人を経て入学。入学試験科目「1500m快走」の練習を行う中、記録が順調に伸びていく喜びを感じた。もともと、筑波大の合格発表を家から5、6時間かけて走って見に行ったりと体力に自信があったことや、「何事にも真面目に取り組む性格が向いている」と思ったことから、トライアスロン部に入部。その後、よのぬい練習環境を求め、2年の春に地元の名門トライアスロンスクール「宇都宮村上塾」に通い始めた。

それと同時に、往復120㎞の通学生活が始まった。「2年の春までは学生宿舎に住んでいた。宿舎の快適な生活に甘えて外出しなくなっていたので、自分を委ねる良いきっかけになった」。トライアスロンの練習は多忙を極めた。実家の周辺で走り込みを行った後に自転車で登校。直後に水泳の練習を行う日もあったという。

大学入学後に競技を始めたにもかかわらず、成長を見せ、地元の大大会などで実績を積み重ねた。今年4月の全日本宮古島大会では、躍進を遂げた。合計202・195㎞(水泳30㎞・バイク157㎞・長距離走42・195㎞)を8時間37分19秒で完走し、自己ベストを更新。総合5位(日本人2位)に輝いた。「練習の成果が発揮できた。競技中はとにかく楽しかったことしか覚えていないと振り返る。だが、8月に、10月の日本選手権に向けた練習の帰り道に車と衝突した。左腕と顔面を負傷してしまい、全日本選手権出場を断念。結果次第でプロを目指すか研究に集中するかを決める重要な大会だったため、ひどく落ち込んだ。「しばらく家から出られなかった」。

だが、自転車への熱は冷めなかった。在学中のトライアスロンへの挑戦は諦めたが、現在でも自転車通勤を続けている。今後の目標は、更に自分の限界に挑戦するため、毎日自転車を180㎞漕ぎ、40㎞走れるようになることだ。「いつになるかわからないが、自分が厳しい環境にどこまで適応できるか知った時、再びトライアスロンに挑戦したい」。今日も自転車通勤を続けている(飯田健介 社会学類2年、写真も)

引退を前に、過去の紙面を開いてみました。私が入学した2016年4月7日発行の本紙327号では「期日前投票所 つくば駅前」に設置へ」という見出しが飛び込んできます。次号で終わる「パチンコ先生(11回)もこの号から始まりました▼私がこれまで執筆した記事は、小嶋を含め89本。1年前に発生した渡り廊下の屋根崩落事故や大学の入試改革といった社会派の記事が中心でした。取材は学内だけでなく、市役所や警察、各官庁など...。外国にも行きました秋田耕平 社会学類3年

次号は 1月28日(月) 発行予定です

DANCE EXPRESS vol.13



一体感のある踊りを見せるダンス部 (11月14日、中央体育館ダンス場で) = 同部提供

5面へ

関東大学リーグ



ドリブルを仕掛ける三苫 (11月24日、柏の葉公園総合競技場で) = 飯田健介撮影

9面へ

第44回雙峰祭



力強いよさこいを披露する斬桐舞 (11月2日、石の広場で) = 西村大祐撮影

10面へ

秋季スポーツ・デー



ミニバレーを楽しむ参加者たち (11月18日、陸上競技場で) = 木村誠撮影

10面へ

学芸

スポーツ

学生生活

学生生活

編集後記

編集・発行

筑波大学新聞編集委員会

委員長 土井隆義 (人文社会学系・教授)

副委員長 土子昇 (学生部学生支援業務推進担当課長)

編集委員 菅谷純子 (生命環境系・教授)

果樹園芸学、竹中佳彦 (人文社会学系・教授)

政治学)

筑波大学新聞編集部

編集代表 福原直樹 (筑波大学・教授)

編集長 ジャーナリズム論)

副編集長 益本健太 (人文社会学類3年)

越智小夏 (比較文化学類3年)

ほか編集部員28人

発行 筑波大学

印刷 ヒラマ写真製版